

視 察 報 告 書

報告者氏名：大村 洋子

2018 年度教育福祉常任委員会他都市調査

2018 年 10 月 23 日（火）～10 月 25 日（木）

川崎市立東菅小学校の学力向上に向けた取り組みについて 神奈川県川崎市

創立 50 周年を迎えたという東菅（ひがしすげ）小学校は校舎を新築し、全体に木目調のあたたかい作りとなっていた。全校生徒は 516 人で 15 クラス。校舎の名前はセントラル棟とイースト棟。校長先生が考案。

教育学者の角屋重樹氏の考え方を取り入れて 6 年前から取り組んでいる。

【校長先生のお話で印象に残った部分】

「この子どもたちはみんな素直。白のものでも教師が黒と教えると疑いもなく黒と答えてしまう。しかし、本来的な教育とは自分の頭で考えること。白のものは誰がどう言おうと自分で判断して白と言える子どもになってもらいたい。」

校長室にある観葉植物を例にして・・・

「2つの植物を見比べると、葉の色や形の違いがあり相手を基準にするともう一つを説明することができる。」

「教室の子どもたちみんなに「いいで～す」と言わせると、違うと感じている子どもが主張できなくなる。置き去りになってしまう。」

【感想】

実際に授業を見せていただいたが、教室内の机の配置に驚いた。画像のように放射状に近い並びになっていた。これだと、先生だけではなく子どもたち同士の声や表情がお互いにわかる。緊張感もあるのではないかと感じた。



【お話の中で心に残った言葉】

- ・知識を自分で使える力
- ・思考力の育成
- ・自己肯定感
- ・個の確立
- ・既習を明確にする
- ・自分たちで知をつくっていく
- ・前の仕事と今の仕事の違い 情報を比べて関係づける
- ・こどもが答えるだけの存在になってしまってはいけない
- ・話型 「こう思います」 「なぜならば」

【感想】

体育の授業を直接見た。一人ひとりがマット運動ででんぐり返し。見えるところに移動して見る。全部見てから、同じ、違いを答える。比べる。関連付ける。非常に先生がテキパキと指示を出し、その熱に子どもたちも応えていた。子どもたちに言葉で表現させて、それから実技を行わせる。自分で言葉にして自覚してから、実際に身体を動かしていく。理にかなっていると思った。

【角屋重樹氏のメソッド】

人間性を育むための思考の研究

- ・見通しと振り返りに視点をあてる
- ・教師の「見通しと振り返り」を中心とした授業からこども自身が「見通しと振り返り」をもてる授業づくり
- ・1時間を通して、こども自身が「自分成長」「友達存在価値」に気づく授業づくり

あらたな授業構想の提案

- ・思考の基盤を明確にし、授業を組み立てる
- ・単元全体を通して、既習を用い、新たな知をつくる授業構成にする
- ・比較・関係づけを取り入れる
- ・思考を促す和型を活用する

こどもたちにつけたい資質・能力

- ・自分自身をみつめる能力（メタ認知）
- ・他者から学ぶ力
- ・経験や既習を関連付けて、問題発見、解決する力



【感想】

画像は教室ではなく、廊下。広い廊下に畳が敷いてあり、いたるところに水槽や植物や本が置いてあった。くつろいで本でも読むのだろうか。とても良い雰囲気だった



【感想】

子どもたちは体育の授業に出かけていた。教室にはいたるところに掲示物。キーワードのプレートがたくさんあった。どの教室もこのように視覚的に訴える状況が作りだされていた。

姫路市生涯現役推進計画について 兵庫県姫路市

姫路市は平成20年には20.6%だった高齢化率が平成28年には25.7%となった。このような推移の中で市長の提案で庁内が連携して「生涯現役推進計画」を策定しアクションプランを進めてきている。

- ・生涯現役推進室は市民サービスに直接かかわる市民局が所管している。
- ・横須賀市で言えば、福祉部や健康部が所管する内容だが、生涯現役推進室を設けて横の連携を可能にしている。
- ・庁内組織では座長を副市長にして、局長7人、3つの関連部会が入り、外部組織では市民公募が2人、学識経験者、連合自治会、婦人会、老人クラブ連合会などが入っている。
- ・姫路市の老人クラブの加入率は27.6%。

生涯現役を構成する3つの要素

① 健康 医学的な健康より「主観的健康感」

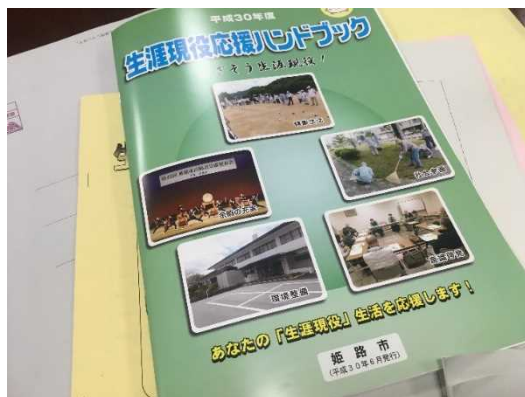
たとえ病気や障害があっても、そのことを認識したうえで、心の健康を保ち、自分の健康状態に一定の充足感を抱いている状態、「主観的健康感」が良好であれば、行動意欲が高まり、実際の活動につながると考えられる。

② 自立

たとえ日常生活において支援を受けていたとしても、日々どう生きるかについて、自分のルールや好みによって、自分で考え、自分で決定できることは、人間の尊厳をもって生きる上で重要。

③ 活動

活動の際に「こうしたい」「こうなりたい」「これを実現したい」という目的意識をもって取り組むことは、その人の生きがい感を高めることになる。「いやいや」とか「仕方なく」といった消極的な意識ではなく、「楽しい」とか「うれしい」といった積極的で前向きな意識をもった活動は、その人の幸福感につながる。



【生涯現役社会がもたらすもの】

① 社会の活性化

高齢者が長年培った知識や経験、技術を活かして社会の担い手として活躍することで、地域課題を解決したり、地域コミュニティ活動を活発にすることができる。

② 社会保障費の減少

健康なまま高齢になる人が増えれば、医療や福祉にかかる費用を抑えることができる。

③ 豊かな文化の継承と醸成

地域で守り伝えられてきた伝統行事や工芸技術を、高齢者が次世代に伝える機会が多くなれば、豊かな文化を未来に継承することができる。

【感想・意見】

地球上の生物の中でも、ヒトは類まれな寿命を手に入れた。日本人を考えるならば、江戸時代にはせいぜい人生 50 年。それが戦後、どんどん伸びて、今では 80 歳、90 歳、100 歳になりつつある。このようになると、いわゆる「健康寿命」という、どれだけ健康で生活ができるかということにかかってくる。そして、今回姫路市の「生涯現役推進計画」を学ぶ中で、「主観的健康感」という概念に初めて触れ、自分の暮らしを自分がどのようにプロデュースしていくかが大切であることが、よく理解できた。施策ということと同時に、市民への思想というか理念の啓発が大事になってくるのではないかという思いをもった。

学習等支援事業について 愛知県高浜市

三河高浜駅を降りてペデストリアンデッキを歩くと1分ほどで福祉の総合窓口である「いきいき広場」がある。ここは全世代・全対象のワンストップの相談体制となっている。市民には「困ったことがあったら「とりあえず『いきいき広場』へ」という意識が浸透しているという。



- ・学習支援事業「ステップ」はNPOと連携していて、キャリア教育、高校生の就職につなげられるのが強みとなっている。
- ・家庭訪問の際に担任の先生が「ステップ」を勧めることがある。
- ・定員は設けていないが、40人くらい。
- ・高浜市の中学校は2校1,500人そのうち生活困窮世帯（生活保護受給世帯、就学援助受給世帯）に属する中学生は約160人。高浜市では10%以上の中学生が生活困窮世帯に属している。

【感想・意見】

高浜市はトヨタ自動車の城下町的な自治体ということもあり、労働者の雇用は比較的安定しているような感触を受けた。したがって、生活困窮世帯も割合的には横須賀市の半分くらいではないかと思う。そのような中であっても、学習や地域とのつながりのイベント開催、食事の提供など困窮世帯の子どもを支援する施策が充実していることがわかった。横須賀市も子ども育成部が「子どもの生活等に関するアンケート」を行っているので、その結果をしっかりと受け止め、施策の立案、提案を行っていききたいと思う。